

# 家族を大切にしよう

岐阜市立東長良中学校 3年

村瀬 雅

「家族を大切にしよう」という呼びかけをあなたはどれほど重く受け止めますか。私は家族一人一人の顔を思い浮かべ、今の自分の言動はどれくらい家族の幸せに繋がっているか考えるほど重く受け止めます。私は小学生の頃自分は絶対反抗期にならないと確信し続けていました。しかし、中学生になると何故か親を忌むことが多くなり、気づけば反抗期の最中です。理由は分かりません。精神的に家族が嫌になってきました。家族を無視し、関わることを避け、部屋に引き籠もっていました。私は、成長しようとしている証だし、家族は私が反抗期だということを知っているため何をしても仕方がないだろうと軽い話と受け止めていました。しかしそんな私は家族の優しさに気づき家族を大切にしようと強く思うようになったのです。

昨年、おばあちゃんが作業中に機械に巻き込まれ入院しました。お母さんにお見舞いに行こうと何度も言われましたが、嫌だと言って断った結果、いやいや行くことになりました。おばあちゃんに会った時、早く帰りたいとしか思っていませんでした。会話すらできず、おばあちゃんの言葉に頷くだけでした。私は今までおばあちゃんが私に何か買ってきてくれたり話しかけてくれたりした時、嫌がったり聞こえないふりをしたりして無視することがありました。にも関わらず、おばあちゃんはいつもの明るい笑顔で話してくれて、自然と涙がポロポロ零れ落ちました。その時の私は帰りたいなんて感情を忘れ、元気そうでよかったとひたすらに思っていました。同時に、反抗してきた自分を反省しました。優しく大切なおばあちゃんになんて酷いことをしてきたのかと。その後のメールでおばあちゃんから「来てくれてありがとね」と送られてきました。私は反省も踏まえてメールなら話せると思い、返信と同時に会話をするようになりました。対面して話すことが望ましいですが、会話をするという私にとって大きな一歩を踏み出すことができました。自分が酷いことをしても私を大切にしてくれる優しさに気づかされました。おばあちゃんと会話できて幸せです。

それからお父さんの誕生日が近づいてきたとき、反抗期で全く関わらないのにプレゼントを渡すことなんてできないと思っていました。しかしおばあちゃんの面会を通じて家族の優しさに気づいた私は、感謝の気持ちを込めてお父さんに花をプレゼントしたいと思いました。そのためお父さんの誕生日の前日、友達と遊んだ帰りに一人で近くの園芸屋で1時間ほど考えて考えて花を選びました。「家族を守る」という意味の黄色いバラ、お父さんはいつも頑張ってくれているし、自分も受験生ということで「努力の成果」という意味のカーネーション。普段無口だったためお父さんに対する気持ちを花で伝えたかったのです。当日、勇気を持ってお父さんに「誕生日おめでとう。」と言葉まで添えて花をプレゼントすることができました。すると自然にその花を選択した理由も話していました。お父さんは「ありがとうしか出てこない」と言ってくれました。それ以降お父さんとの会話が少しずつ増えてきました。お父さんは反抗期の私の立場になって考え、少し距離を置いてくれていたのです。

よく思い返してみると、私のわがママを受け入れてくれるお姉ちゃん、私のために自分を捨てて動いてくれるお母さん、見えない面で私のライフスタイルに合わせて動いてくれるおじいちゃん。普段の生活の色々な場面で家族に支えられてばかりでした。

私は、これらの事を通じて家族を大切にすることは、家族一人一人の幸せを願い、そのために自分ができることを行動することだと思いました。反抗期になると、感情をコントロールするのが難しく、ついあたってしまう気持ちはよく分かります。しかしその行為を反省してから行動を改めるのはもう遅いです。会話を交わすだけでもお互い大きな幸せを感じられるはずで、あなたは「家族を大切にしよう」という呼びかけをどれほど重く受け止めますか。